Cloud LANSCOPE Endpoint Manager

【完全版】iOS・Mac デバイス管理必携

Apple Business Manager 徹底解剖！

Contents

目次

01 Apple Business Manager 概要

02 自動デバイス登録（ADE/旧DEP）・アプリ一括配信（旧VPP）の利用メリット

03 管理ツールの切り替え / 新規導入時の注意点

© MOTEX Inc.

chapter

01. Apple Business Manager 概要

© MOTEX Inc.

「Apple Business Manager」はMDMツールと組み合わせて利用するAppleのプログラムです

MDM ツール

- デバイス情報（ハード・アプリ）の取得
- 位置情報の取得
- リモートロック・ワイプ
- セキュリティポリシーの設定
- メッセージ・アンケートの通知

＋

Apple のプログラム

Apple Business Manager（ABM）

- MDM と組み合わせて利用する必要がある
- MDM ツール単体で実現できない、より高度な管理を実現
- 利用は無償だが、事前準備や利用条件があり、注意が必要

MDM ツールと ABM を組み合わせて利用することで、より高度なデバイス管理を実現できます。

© MOTEX Inc.

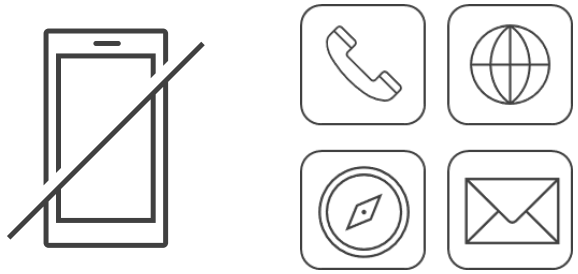
MDMの基本となる紛失・盗難対策だけでなく、より高度なデバイス管理を求めてABMの利用ニーズが高まっています

iOS 管理の基本

MDM < MDM + ABM

ABM を組み合わせた方が
より高度なデバイス管理が可能

より高度な管理とは何か？



- キッティング作業の効率化
- Apple Account の設定に依存しないアプリ管理
- デバイス制限項目が充実

© MOTEX Inc.

Apple Business Manager＝自動デバイス登録（ADE）＋ アプリの一括配信（旧VPP）

Apple Business Manager とは

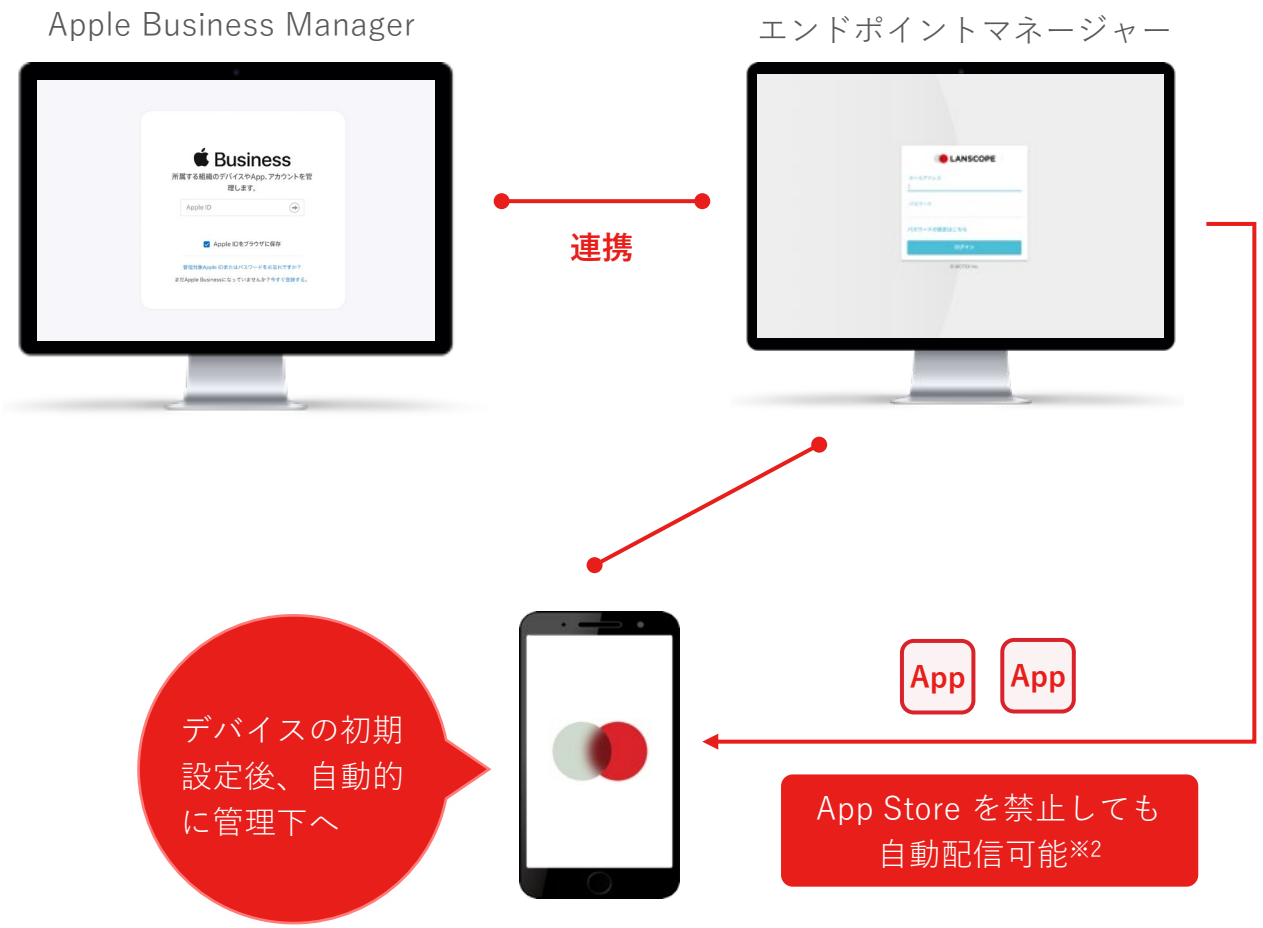
ABMはデバイスを効率的にエンドポイントマネージャーの管理下に置き、アプリの配信やデバイスの利用制御などを実現できるApple 社が提供するプログラムです。

自動デバイス登録（ADE / 旧称DEP）

MDM構成プロファイルのインストールと監視モードへの適用を自動化します。ABMとエンドポイントマネージャーを連携し、デバイスの初期設定を効率化。

アプリの一括配信（旧称VPP）※1

Apple Account（旧Apple ID）の設定有無に依存せず、アプリの一括配信が可能。App Storeの利用を禁止し、許可したアプリのみ利用を認めるなどの設定が可能です。



※1 オプション機能、macOSは非対応でiOSのみ対応。
※2 デバイスを監視モードに設定する必要があります。

© MOTEX Inc.

chapter

02. 自動デバイス登録（ADE/旧DEP）・アプリ一括配信（旧VPP）の利用メリット

Device Enrollment Program（DEP）は、自動デバイス登録（Automated Device Enrollment / ADE）の旧称です。

© MOTEX Inc.

Apple Business Managerの主な機能一覧

	主な機能		iOS	macOS	説明
ADE	設定アシスタントのスキップ		○	○	設定アシスタント（初期設定）でスキップする項目を選択できます。
ADE	MDM構成プロファイルの自動インストール		○	○	デバイスの初期設定の過程で、MDM 構成プロファイルが自動でインストールされます。
ADE	MDM構成プロファイルの削除禁止		○	○	MDM構成プロファイルの削除を禁止できます。
ADE	デバイスを監視モードに自動適用		○	ー	デバイスを監視モードに自動適用できます。
ADE	監視モード適用時のメリット	紛失モードの利用	○	ー	ロック解除の禁止、位置情報の強制取得など、より強力な紛失対策を実行できます。
ADE	監視モード適用時のメリット	VPP アプリのサイレントインストール	○	ー	VPPアプリとして配信したアプリをデバイスにサイレントインストールできます。
ADE	監視モード適用時のメリット	監視モード専用の構成プロファイル適用	○	ー	監視モードデバイス専用の特定プロファイルを適用できます。
ADE	アカウントの自動作成		ー	○	管理者アカウントの自動作成、ユーザーアカウントの設定内容を指定できます。
VPP	アプリの一括配信※		○	ー	Apple Accountの設定有無に依存しないアプリの配信ができます。

Mac デバイスの監視モードについて

iOSを監視モードに適用する場合、ADEを利用してデバイスをエンドポイントマネージャーの管理下に置く必要があります。一方、macOS 11（BigSur）以降の場合は**ADEの利用可否に拘らず、デバイスを管理下に置くことで監視モードが適用**されます。

Appleから直接もしくはApple正規取扱店と必要な手続きを行った上で購入したiOS・Macデバイスのみ自動デバイス登録を利用できます。
利用可否はデバイス購入元にお問い合わせください。また、ADEを利用する場合、デバイスの初期設定（アクティベーション）が必要です。そのため、利用中のデバイスの場合は一度初期化し、再アクティベーションが必要です。

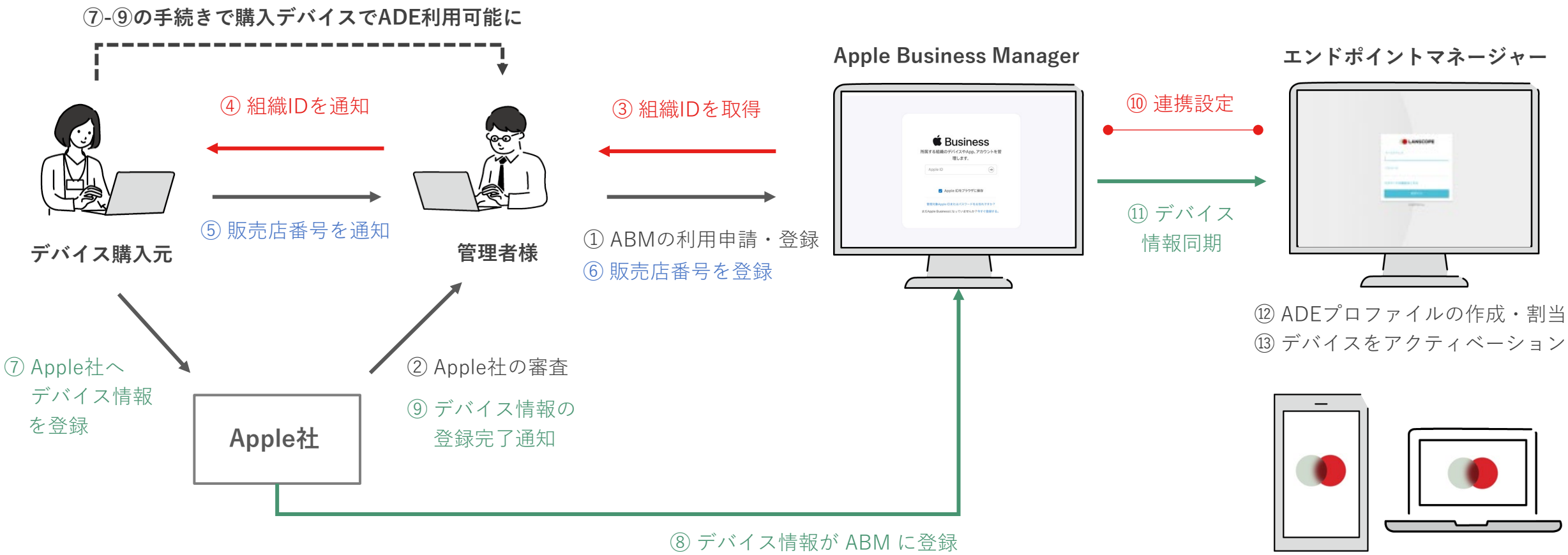
※ オプション機能です。

© MOTEX Inc.

【自動デバイス登録】利用時の全体像（手順①-⑬）

ADEを利用する場合、デバイス購入前に、デバイス購入元にADEの利用申請が必要です。申請方法は購入元にお問い合わせください。

ADEを利用するためには、Apple Business Manager（ABM）サイトから登録を行う必要があります。登録後、Apple社審査完了後に、「組織ID」が払い出されますので、デバイス購入元（Apple正規代理店）に「組織ID」を通知する必要があります。尚、デバイス購入の申請時に「組織ID」が必要な場合もあります。下記図はイメージです。Apple社の仕様変更やデバイス購入元によって流れが異なる場合があります。



© MOTEX Inc.

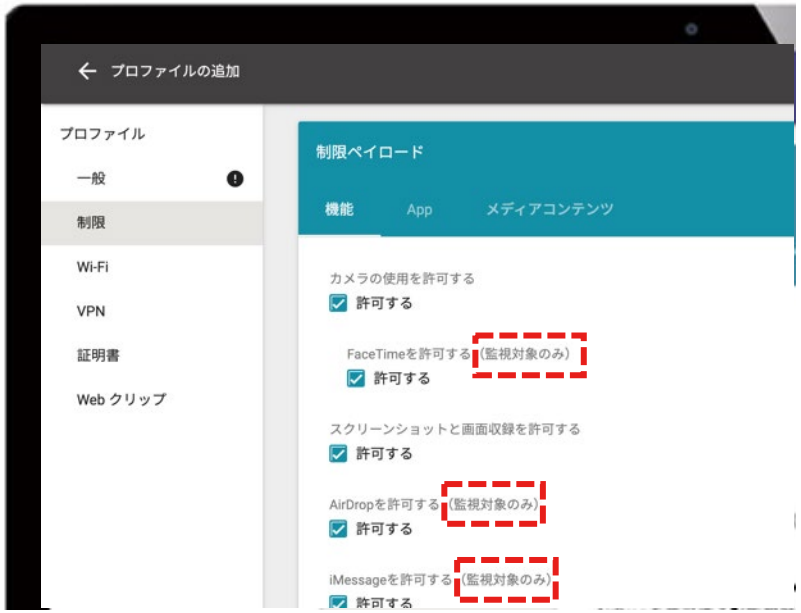
自動デバイス登録を利用することで、デバイスを監視モードに適用

監視モードに適用することで、より高度なデバイス管理を実現

● MDM構成プロファイルの削除禁止

- 自動デバイス登録 未利用 -　　- 自動デバイス登録 利用 -

● 監視モードデバイス専用の特定プロファイルの適用



監視モード（監視対象のみ）で適用できるプロファイルの例

- App Storeの利用禁止
- AirDropの利用禁止
- Wi-Fiペイロードによってインストールされた Wi-Fi ネットワークのみに接続する
- ソフトウェア・アップデートの延期（最大90日）

● 紛失モードの利用

- 画面上へのメッセージ表示
- ロック解除を禁止
- 位置情報の強制取得

© MOTEX Inc.

【自動デバイス登録】利用する場合 / 利用しない場合の比較

	iOS		macOS	
	ADE利用＝監視モード設定 ※1	ADE未利用	ADE利用 ※1	ADE未利用
MDM 構成プロファイルインストール方法	自動インストール	手動インストール	自動インストール	手動インストール
MDM 構成プロファイルの削除禁止	○	×	○	×
デバイス・インストールアプリ情報の取得	○	○	○	○
パスコード（パスワード）ポリシーの設定	○	○	○	○
リモートロック・ワイプ	○	○	○	○
位置情報を取得する	○	○	×	×
紛失モード	○	○	×	×
アプリの配信	○	○	○ ※2	○ ※2
VPP アプリの配信	○ サイレントインストール	○ ダイアログ表示	×	×
構成プロファイル配信	○	△ ※3	○	○
アカウントの設定	×	×	○	×

※1 iOSデバイスの場合、ADEを利用することでデバイスが監視モードに設定されます。一方、Macデバイス（macOS11［BigSur］）の場合、ADEの利用可否に拘らず、エンドポイントマネージャーの管理下にデバイスを置くことで、監視モードに設定されます。
※2 Macデバイスのアプリ配信は「.pkg」ファイルを利用したアプリのみ対応しています。macOSのApp Storeアプリの配信は対応していません。
※3 iOSデバイスの場合、デバイスが監視モードに設定していないと配信できない構成プロファイルがあります。

© MOTEX Inc.

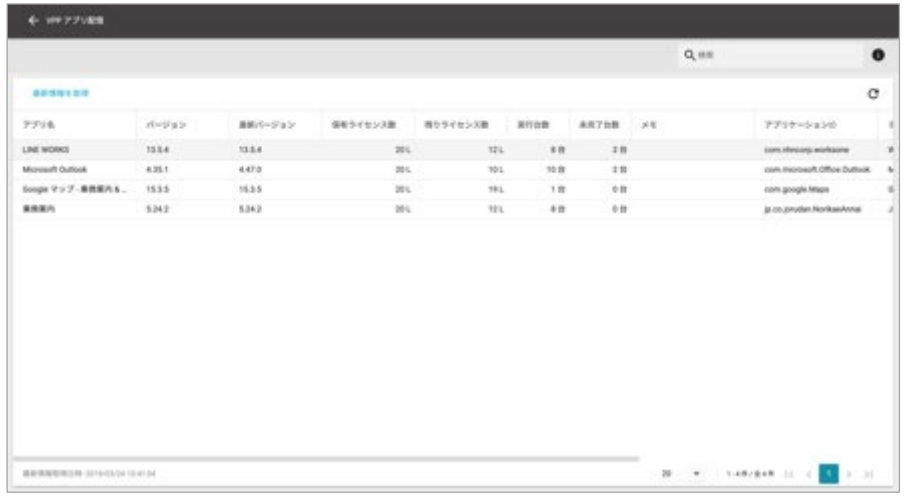
エンドポイントマネージャーから業務に必要なアプリを一括配信
ABMを利用したアプリ一括配信ならではのメリットも

アプリ配信の種類/利用シーン比較	利用シーン	管理コンソールから配信実行後のデバイス側の動作	
App Storeアプリ配信 （基本機能）	● デバイスにApple Accountを設定し、利用者にパスワードを教えている。 ● アップデートは利用者が App Store から行う。	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② Apple Accountのパスワードを入力する ③ インストールが実行される	
アプリの一括配信（旧称VPP） **デバイスベース方式配信** **（オプション機能）**	● **デバイスにApple Accountを設定していない**、もしくは設定しているが利用者にパスワードを教えていない。 ● App Store を禁止した状態でアプリを配信したい。 ● アップデートは管理者がエンドポイントマネージャーから行う。	監視モード適用	サイレントでインストールされる
		監視モード未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② インストールが実行される
In-Houseアプリ配信 （基本機能）	● 自社開発した（ストアに掲載されていない）アプリを配信する。 ● アップデートは管理者がエンドポイントマネージャーから行う。	監視モード適用	サイレントでインストールされる
		監視モード未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② インストールが実行される

© MOTEX Inc.

Apple Accountの設定・サインイン有無に依存せず、アプリ配信・インストールが可能

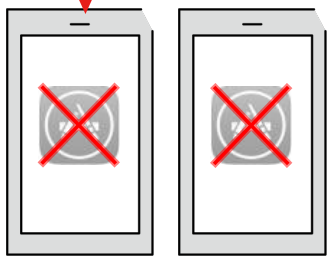
① ABM でアプリを入手、
ライセンスが反映



解 説 デバイス側での操作について

インストール要求のダイアログ表示後に許可すると、インストールが完了。Apple Accountのパスワード入力無しでインストールが可能。
※デバイスを監視モードに設定するとダイアログは表示されません。

App Storeを禁止していても
配信可能！※



② VPPアプリを
デバイスに配信

③ インストール

※ デバイスを監視モードに設定する必要があります。

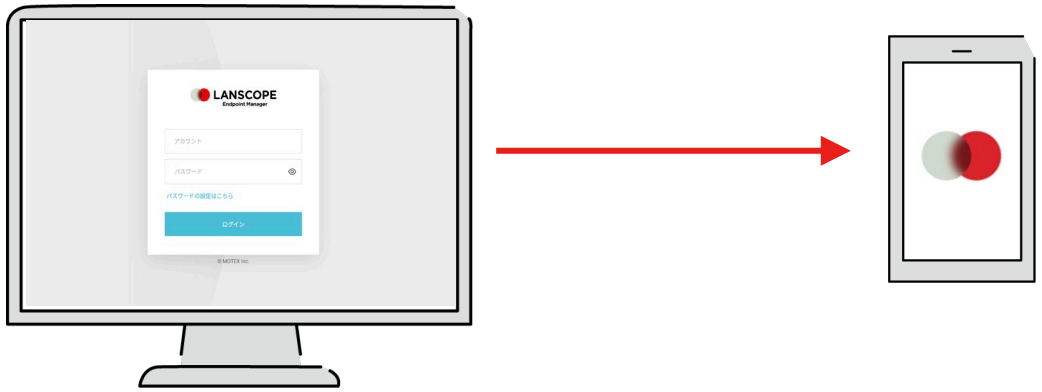
© MOTEX Inc.

【アプリ一括配信】アプリカタログ機能

業務に必須のアプリは管理者がPushで強制インストール、任意のアプリは利用者が必要に応じて、
アプリカタログからインストールするなど、運用に合わせて使い分けが可能です。

管理者のタイミングでインストール（Push 配信）

管理者のタイミングでアプリを配信。アプリのアップデートは、管理者が行う必要があります。



アプリの自動配信設定

業務に必要なアプリは、デバイスがエンドポイントマネージャーの管理下に入ったタイミング（MDM構成プロファイルインストールのタイミング）で、自動配信が可能です。管理者が都度、アプリを配信する必要はありません。

利用者のタイミングでインストール（アプリカタログ）

利用者が自身のタイミングで、アプリカタログよりアプリのインストール・アップデートを実施するため、管理者の負担軽減にもなります。

© MOTEX Inc.

chapter

03. 管理ツールの切り替え / 新規導入時の注意点

© MOTEX Inc.

管理状況や今後行いたいことによって、デバイスの初期化が必要です

初期化が必要あるケース

現在 MDM で管理しているデバイスの場合

- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用している
- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用していないが、エンドポイントマネージャー クラウド版では利用したい

現在 MDM で管理していないデバイスの場合

- すでに利用中のデバイスで、エンドポイントマネージャー クラウド版で自動デバイス登録を利用したい

初期化が必要ないケース

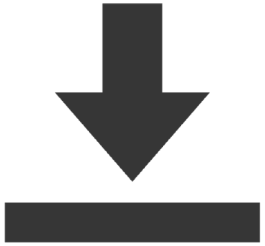
- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用しておらず、エンドポイントマネージャー クラウド版でも利用しない
- MDM の管理下にないデバイスで、エンドポイントマネージャー クラウド版で自動デバイス登録をしない

© MOTEX Inc.

なぜ初期化が必要なのか？

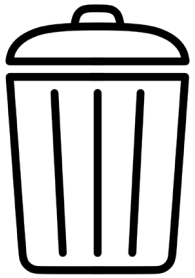
自動デバイス登録では、管理に必要なMDM構成プロファイルが
デバイスのアクティベーション過程でインストールされるため、初期化が必要です

エージェントのインストール



アクティベーション（初期設定）の
過程でインストールされる
利用中のデバイスの場合は初期化が必要

エージェントのアンインストール



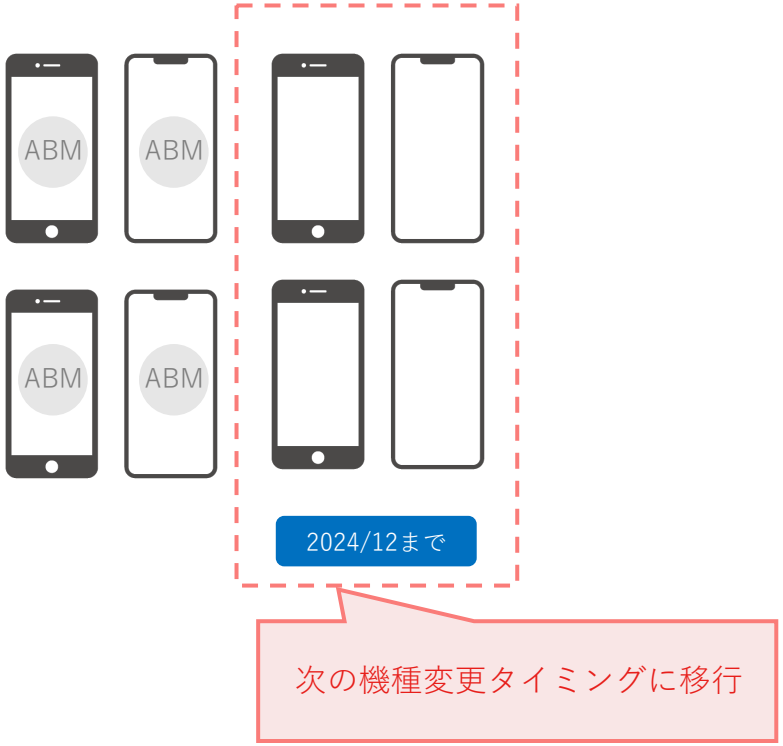
アンインストールするためには
デバイスの初期化が必要

© MOTEX Inc.

自動デバイス登録は、Apple正規代理店から所定の手続きを経て購入したデバイスのみ適用可能
そのため、機種変更のタイミングで自動デバイス登録を利用することがオススメ

スマホ によって機種変更
タイミングがバラバラ

機種変更後のスマホから
自動デバイス登録を適用



© MOTEX Inc.

参考：デバイス管理に必要なプログラム（iOS・macOS）

必要なプログラム	対象OS	概要	配信・インストール方法	
MDM構成プロファイル*1*2 【必須】	iOS / macOS	エンドポイントマネージャーを利用する場合、デバイス側にインストールが必須です。	ADE未利用	デバイスのアクティベーション後に、 別途手動でインストール。
			ADE利用	**デバイスのアクティベーション（初期設定）後に 自動インストール。**
LANSCOPE Client（アプリ）*3 【任意】	iOS*4	iOSデバイスで、次の機能を利用する場合にインストールが必要です。 ・位置情報取得機能 ・メッセージ・アンケート機能 ・デバイスの Jailbreak 検知機能 ・デバイス利用ログ取得機能 ・アプリカタログ 配信はエンドポイントマネージャーから行います。	アプリ配信 （VPP未利用）	デバイスに Apple Accountを設定し、エンドポイントマネージャー クラウド版から配信
			VPP利用	**管理コンソールから配信。MDM構成プロファイルインストールのタイミングで自動配信も可能。 デバイスを監視モードに設定することでサイレントインストールが可能。** **※Apple Accountの設定有無は問わない。**

*1 MDM 構成プロファイルのインストールが必要な他社製品との同居は、Apple の仕様上できません。
*2 バックアップデータの復元時における挙動については、Apple 社の仕様に依存するため、弊社から明確な回答ができない場合があります。
*3 LANSCOPE Client のインストール後、デバイス上で LANSCOPE Client を一度タップし、起動する必要があります。尚、アプリ配信・VPPを利用せず、デバイスからApp Storeにアクセスし、手動で LANSCOPE Client をインストールする場合、LANSCOPE Client をサーバーに登録するための「登録用 Clip」をエンドポイントマネージャーからデバイスに配信し、登録作業を行う必要があります。
*4 Macデバイスの場合、MDM構成プロファイルをインストール後、LANSCOPE Clientをはじめとしたアプリや関連するプログラムが自動インストールされます。

© MOTEX Inc.

Appendix

© MOTEX Inc.

PC・スマホ・タブレットの一元管理をクラウドで実現
「使いやすい」管理コンソールで、充実の「IT 資産管理機能」と「MDM 機能」を実装

IT review 顧客評価No.1※

使いやすい管理コンソール

充実の PC 管理

操作ログ・セキュリティ
PC 管理に必要な機能を網羅

Apple・Google の認定プログラム対応

充実の「モバイル管理」

※ IT 資産管理、ログ管理、MDM・EMM、統合運用管理の4部門でLeaderを獲得

© MOTEX Inc.

Apple Business Manager との連携設定も含め、製品版へのデータ引き継ぎが可能です！

エンドポイントマネージャー クラウド版の体験版は 60日間利用できます。十分に機能を検証していただき、ご検討ください。

また、Apple Business Manager との連携設定を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。

体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメールで問い合わせが可能。マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。

MOTEX

本資料に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社	06-6308-8980
東京本部	03-3455-1811
名古屋支店	052-253-7346
九州営業所	092-419-2390
E-mail	sales@motex.co.jp

ご導入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター	0120-968-995 （携帯・PHSからは06-6308-8981）
お電話受付時間	9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）
E-mail お問い合わせ	support@motex.co.jp

・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。
・製品の仕様・サービスの内容は予告なく変更させていただく場合があります。
・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。

© MOTEX Inc.